

高ふはゞざり升れど御免のかうむり是より口上をもつて

申上奉り升る先以て大江戸御町中御見物様方の

御うるはしき御尊顔を久／＼にて拝し奉り如何計

難有仕合に奉存升る扱私義芸道修行の為先年

大坂表へ罷登り候処未熟不調法私暦々の役者の中に

加り興行仕候段全大江戸根生の御余光と心魂に

てつし難有仕合と寝た間も忘れはつかまつらず

冥加し極とおもふにつけ只大江戸のなつかしく

片しも早く立帰り御目見得致度月日に指を

折くは古郷の空のみ打ながめ居升るうち昨春

彦三郎菊次郎亀藏等は江戸表より迎玉束

発足仕候に付私義もとも／＼附添立帰り度存居

御処折あく風邪にて其義も成がたく殊には未だ

修行中故能々養生致今西三年も止るやう

にと伯父亀藏よりの異見につき其意に任候中

今般去御ひいき様より早々罷下り弟田之助義

厚き御取立の御礼も申上猶又其方も古郷で

修行仕候やうと難有御差函に取物も取不放

罷下り久／＼にての御目見得只親共の俤と思し召

弟田之介同様御ひいき御取立の程奉希上升